

平成29年度 学校評価における自己評価の結果

【本年度の重点目標】(学校長より)

- 1 「学ぶ楽しさ」を気づかせることのできる学習活動を図る
- 2 創造型実践技術者の育成を図る
- 3 自らの授業力向上を図る
- 4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る
- 5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

1 「学ぶ楽しさ」を気づかせることのできる学習活動を図る

A:5(38. 5%) B:4(30. 8%) C:4(30. 8%)

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
教務部	1	学校行事の精選	従来行事の見直しと新行事の計画	新行事の立案・計画度合い 年度末	A:新行事5件以上 B:3件以上 C:3件以下	なし	B	・PTA総会、定期試験、学校公開、各種会議等の日程変更を見直した。	・行事検討委員会を定期的に開催し、今後も検討が必要である。
学習指導部	1	「学ぶ楽しさ」に気づかせることのできる学習活動の推進	生徒の授業に臨む意識(姿勢)はどうか	「学ぶ楽しさ」を発見できるような授業の工夫ができた教員の割合 アンケート調査(12月)	A:80%以上 B:70% C:60% D:50%以下	なし	B	一方的な授業ではなく、「学ぶ楽しさ」に気づかせることのできる授業づくりの工夫をするように、教える側の意識が変わってきた。	比較的良好な結果であったが、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感できるような指導を目標に、研鑽していきたい。
特活指導部	1	生徒の自主的な行動と運営の見直しによる生徒会行事の充実	生徒会行事に積極的に参加できたか	生徒会行事に積極的に参加できた生徒数	A:90%以上 B:70% C:50%以下	なし	A	生徒会の積極的な働きかけの効果もあり、特に学校公開では、生徒たちの充実度の高い行事運営ができた。	今年度実施できなかった行事に関しても継続的に改善を進め、よりよい学校づくりをしていきたい。
進路指導部	1	自己理解をもとにした将来の目標設定	3学年における進路の選択状況	就職、進学等目標がはっきりとしているか 進路アンケート「4月実施」より	A:決定済み80%以上 B:60%~79% C:60%以下	なし	A	3年間の進路ガイダンスの内容を改善し、また、適性検査やSPI試験の日程を見直し、より進路選択に役立つようにした。	進学か就職かは決まっているが、具体的な会社や学校は決まっていない。1,2年次から企業研究をできる環境を整える。
健康安全指導部	1	環境の美化	清掃状況の確認(本館のHR、廊下、階段、トイレ、昇降口)	毎月の状況の評価(5~1点)し、年度末に合計を評価	A:4点以上 B:2.5~3.9点 C:1.5~2.4点 D:1.4点以下	なし	B	各清掃分担区の先生の指導の下、おおむね良く取り組むことができた。教室のワックスがけも行った。	昇降口などでは、下駄箱の上にシューズ等が置かれている状況が多く、改善する余地がある。
渉外部	1	会員及び地域社会との連携	PTA総会の出席率の向上	PTA総会出席率・5月	A:50%以上 B:40%以上 C:40%未満	なし	C	今年度、開催日を5月初旬の連休中の平日とした。	開催日を変更したが、出席率が上がらなかった。次年度の開催日の検討をしたい。
機械科	1	わかる指導の工夫を実施し、情報技術検定合格率アップを目指す	情報技術検定合格率アップ	昨年度比情報技術検定合格アップ率	A:40%以上 B:39%~25% C:25%未満	なし	A	機械科1年において、受検者38名中27合格で合格率71%(昨年度36%)となり、昨年度比で97%アップした。	今年度の資格指導体制を維持し、合格率の維持に努めていく。
生産機械科	1	定期試験の平均点向上	クラス平均点	学年末評点結果	A:65点以上 B:60点以上 C:50点~59点 D:50点未満	なし	C	2学期末時点では全学年の定期試験平均が58点であり、昨年同時期の平均と比べ2点弱低い結果である。	学習に対する姿勢を身につけさせる工夫について、科としても検討していきたい。
	1	資格取得の合格率の向上	QC4級・危険物乙4類・情報技術検定3級	資格取得の結果	A:合格率平均70%以上 B:55%以上 C:45%以上 D:45%未満	なし	A	QC検定に関しては34名の合格。他2資格についてはこれから試験のため評価できず。	QC検定は85%の合格率となったが、不合格者がいるため、今後の指導を改善していきたい。

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
建設科	1	学ぶ意欲を高める	各種資格試験の合格者数	各種資格試験における合格者数の割合	A:70%以上 B:50%以上 C:49%以下	なし	A	各種資格試験の受験者数は延べ364名、合格者数は延べ294名であり、合格者数の割合は80.8%であった。	今後も合格率の維持に努めていきたい。
1学年	1	基礎学力を身につけ、自ら学ぶ姿勢を育む	基礎テストの欠点者減少	基礎テスト(漢字・数学)の欠点者数	A:5人以下 B:6~15人 C:16~30人 D:30人以上	なし	C	漢字について、各回の欠点者の平均人数4.0人 数学について、各回の欠点者の平均人数15.3人	全体的に一生懸命に取り組んでいるが、苦手意識を持っている生徒が多いので、継続的指導を行っている。
2学年	1	基礎学力を身につけ、自ら学ぶ姿勢を育む	基礎テストの欠点者減少	基礎テスト(漢字・数学)の欠点者数	A:5人以下 B:6~15人 C:16~30人 D:30人以上	なし	B	漢字について、各回の欠点者の平均人数5.8人 数学について、各回の欠点者の平均人数6.2人	ほぼ、同じ生徒が欠点を取っているため、担任などの指導を受け、意識改革と意欲の向上を図りたい。
3学年	1	基礎学力を身につけ、自ら学ぶ姿勢を育む	基礎テストの欠点者減少	基礎テスト(漢字・数学)の欠点者数	A:5人以下 B:6~15人 C:16~30人 D:30人以上	なし	C	漢字について、各回の欠点者の平均人数26.5人 数学について、各回の欠点者の平均人数11.5人	取り組む意識が低い。基礎力の必要性をもっと訴えていきたい

2 創造型実践技術者の育成を図る

A:7(43.8%) B:9(56.3%) C:0(0%)

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
学習指導部	2	望ましい学習環境の確立	各教員によるクラスごとの生徒の授業態度の評価	職員へのアンケート調査(「生徒の授業に臨む姿勢について」)	A:80%以上 B:70% C:60% D:50%以下	なし	B	昨年度の同様の調査における割合とほぼ同じであった。	クラス・教科・授業形態による授業態度の差が大きい。今後も継続して指導方法を工夫していきたい。
特活指導部	2	部活動の活性化	部活動に加入し、積極的に参加できたか	生徒へのアンケート調査・1月	A:80%以上 B:70% C:50%以下	なし	B	ほぼ例年通りで、全体で70%を超える加入状況であった。	部活動にとどまらず、生徒会活動など、自分を磨ける生活環境づくりに努めたい。
生徒指導部	2	交通安全意識の向上	自転車及び原付二輪車における安全運転(ルール・マナー)の意識向上	交通事故件数状況前年度比(年度末)	A:減少 B:同数 C:増加	なし	B	自転車事故の増加。(H28:12<H29:13)	危機意識を含めて継続的指導を行い、事故の減少及び防止に努めていきたい。
	2	ボランティア精神の徹底(真岡線駅舎清掃活動への積極的参加)	参加生徒の取り組み状況	参加生徒へのアンケート(1学期末)	A:80%以上 B:50~79% C:49%未満	なし	A	昨年度の同様の調査における割合とほぼ同じであった。	参加生徒は積極的、まじめに取り組むことが出来たと回答。今後も継続して実施していきたい。
進路指導部	2	進路希望の実現	就職採用試験1次募集での合格率	就職試験等の合格率、年度末	A:合格率80%以上 B:70% C:60%	なし	A	合格率は3年連続で増加し、今年度は89.6%であった。	売り手市場で高卒生の求人が多いが、不合格の生徒は必ず居るので、適性を見て、進路指導をしていきたい。
健康安全指導部	2	疾病の予防及び健康意識の向上	健康情報の提供状況	保健だより及び情報提供資料の発行・伝達回数	A:15回以上 B:12~14回 C:9~11回 D:8回以下	なし	A	生徒向けの他に職員向けの保健だよりを学期に1枚発行。15回の情報提供を実施する予定。(2,3月を含めて)	生徒への健康指導を保健室以外の場でもしていけるよう、職員への情報提供の機会を増やしていきたい
工業管理部	2	工業関係の大会等への積極的な参加	新しい大会へのチャレンジ	新しい大会へのチャレンジ数・2月末	A:3大会以上 B:2大会以上 C:1大会以下	なし	B	①技能五輪大会「建築大工」競技出場(建設) ②コマ大戦出場(機械・生産)	毎年の新規出場は難しい面もあるが、今回の出場大会については継続できるように各科に働きかけていきたい。
機械科	2	専門性の向上	各種技能検定への挑戦	技能検定の合格率 年度末	A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	なし	A	技能検定受検13名中12名合格(合格率92.3%)	今後も、ものづくりマイスターによる技能指導も含め、この指導体制を継続していく。

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
生産機械科	2	自ら考え技能向上に取り組む人材の育成	生徒研究発表大会等への参加	大会成績結果	A:上位3位以内 B:4位～6位 C:7位～9位 D:10位以下	なし	A	技能検定実技試験成績優秀者表彰該当生徒1名 栃木県高校生電気自動車大会課題研究班13位	アイデアロボット、電気自動車大会も含め、各種検定試験等への自主的挑戦の場を整えていきたい。
電子科	2	専門的知識・技術の習得	アイデアロボット、ロボットアメリカンフットボール競技大会	県大会での戦績結果 大会終了後	A:2大会全国出場 B:1大会全国出場 C:全国出場なし D:県予選出場なし	なし	B	ロボットアメリカンフットボール大会優勝 H30.2全国大会出場決定	アイデアロボットは制御方法を変更したため、次年度は期待できる。
建設科	2	3S(整理・整頓・清掃)の習慣化	実習室等の3S(整理・整頓・清掃)活動の状況	安全で効率的に作業が行えるように実習室等の環境づくりが実践されているか点検をする	A:実践されている B:ある程度実践 C:あまり実践されていない D:実践されていない	なし	B	清掃の時間を考慮した授業進行をしたため、ある程度は実践ができています。	実験器具など水洗いをしたものが、乾燥させるために置きっぱなしになっていることがあるので、注意をしたい。
1学年	2	基本的な生活習慣の確立	出席率・遅刻率	出席率99%以上・遅刻率5%以下を目標値とする・各学期ごと	A:目標値クリア B:目標値の90%以上 C:80%以上 D:80%未満	なし	A	1学期の出席率99.65%、遅刻率1.27% 2学期の出席率99.52%、遅刻率1.70%	遅刻数を増やしている生徒が多い。中には、科長指導を受けた生徒がいる。段階的指導をしていきたい。
2学年	2	基本的な生活習慣の確立	出席率・遅刻率	出席率99%以上・遅刻率2%以下を目標値として評価する。各学期ごとに評価	A:目標値クリア B:目標値の90%以上 C:80%以上 D:80%未満	なし	A	1学期の出席率99.46%、遅刻率0.40% 2学期の出席率99.45%、遅刻率0.28%	ほぼ、同じ生徒が遅刻や欠席を繰り返しているため、担任などの指導を受け、基本的な生活習慣の確立を図りたい。
	2	全生徒の進路目標を考えさせる	進路実現に関するアンケートや面談を実施	「未定」「まだ決まっていない」の割合を集計	A:合計が5%以下 B:10%以下 C:15%未満 D:15%以上	なし	B	まだ決まっていない。迷っている生徒の割合は、5.625%である。	今年度中に進路の方向性を決定させたい。また、進路目標を設定し行動計画を立て、進路実現に向け指導していきたい。
3学年	2	3S(整理・整頓・清掃)の実践	ロッカーの上、教室等の整理状況	随時、状況を確認	A:整理が常時保たれた B:ほぼ保たれた C:あまり整理されていない D:整理されなかった	なし	B	クラスによっては常時整理整頓されている。先生方の声かけにより全体的にみてもほぼ保たれている。	卒業に向けて整理整頓清掃をさらに充実させていきたい。
	2	進路の実現	進路実現に関するアンケートを実施	「自分の進路に満足できた」「自分の進路にある程度満足できた」の割合を集計	A:合計95%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	なし	B	無作為抽出での調査で、満足72%ある程度21%の計93%の結果であった。	企業研究不足や本人の適性が会社にあわないことなどあった。事前の指導をさらに高めていきたい。

3 自らの授業力向上を図る

A:3(75.0%) B:1(25.0%) C:0(0%)

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
生徒指導部	3	規則正しい生活習慣の徹底	遅刻数の減少を目指す指導	遅刻数の前年度比・(年度末)	A:減少 B:同数 C:増加	なし	B	昨年度比と同等に遅刻数であった。	1年同数。2年減少。3年増加。特に3年2学期より遅刻数が増加している。目的意識を持って学校生活ができるように継続的指導を行っていきたい。
工業管理部	3	教職員が常に知的好奇心を持ってスキルアップを図り、指導力の向上を目指す	授業力向上につながる研修等への参加	工業科教員の研修参加率・年度末	A:65%以上 B:64～40% C:40%未満	なし	A	全工協、県総合教育センター等の研修参加者延べ人数25名 参加率25/27=92.6%	今後とも、工業管理部として参加率を維持できるよう意欲向上に努めていく。

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
電子科	3	専門的知識・技術の習得	専門研修・講習会・発表会への参加	参加2回以上の教員数・年度末	A:5名が2回以上参加 B:4名が参加 C:3名が参加 D:複数回参加なし	なし	A	工業専門研修に限らず、地域教育に関するセミナーなどに参加した。	引き続き積極的に研修に参加する。
建設科	3	指導方法の工夫改善	講習会や研修会などへの参加回数	参加回数の合計 年度末	A:5回以上 B:3回以上 C:3回未満	なし	A	工業の専門的な内容だけでなく、教育相談などの内容にも参加した。	指導力向上のために様々な研修に参加をする。

4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る

A:4(100%)

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
教務部	4	情報発信の拡大	ホームページ等の発信回数	年間における2回以上発信した週の割合・年度末	A:90%以上 B:75%以上 C:74%以下	なし	A	・HPをリニューアルし、充実したものになった。 ・週当たり投稿平均数26.6件	・「卒業生の声」や「生徒からの投稿」を計画中である。
学習指導部	4	生徒理解に立った教科指導による基礎学力の確実な習得	生徒理解に立った教科指導を実践できたか	実践できた教員数の割合・職員へのアンケート調査(12月)	A:80%以上 B:70% C:60% D:50%	なし	A	年2回の校内授業公開旬間により、多面的な生徒の学びの姿を見取ることができた。	良好な結果であったが、生徒理解に向けて、校内授業公開旬間のさらなる活用を喚起していきたい。
生徒指導部	4	チーム支援体制の確立	生徒理解に立った生徒指導を実践できたか	実践できた職員数の割合・アンケート調査12月	A:80%以上 B:70% C:60% D:50%	なし	A	・特別指導(H28:23>H29:18) ・指導件数が減少。	特別指導においても昨年度比減少している。学年・科との連携を密にしていけるようにしていきたい。
渉外部	4	開かれた学校づくり	HPを活用した広報活動	HPへの渉外関係アップ回数・年度末	A:5回以上 B:3回以上 C:3回未満	なし	A	行事毎に概略を示すことができた。	今後も行事ごとに内容がわかるような記事の投稿に努めたい。

5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

A:1(100%)

部・科・学年	重点目標	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
工業管理部	5	各科の特徴を生かし、協力し合える体制の強化	工業管理部主管行事における各科の協力体制	各科長にアンケートを実施・年度末(ロボットアメフト大会終了後)	A:できたと回答80%以上 B:60~79% C:60%未満	なし	A	各科の得意分野に応じて仕事を分担し、協力し合うことが出来た。「できた」との回答100%	各科長を中心に業務分担を明確にするとともに、この協力体制を維持していく。

まとめ

年度当初に校長より五つの重点目標が示され、この目標に基づき各部・学年ごとに努力点を2~3設定して取り組んだ。全体をとおして、現段階での評価35項目の内、A評価が18項目(51.4%)、B評価が13項目(37.1%)、C評価が4項目(11.4%)となった。AまたはBの評価が約89%を占め、ほぼ努力点について目標は達成された結果となったが、重点目標1【「学ぶ楽しさ」を気づかせることのできる学習活動を図る】においては、学年を中心にC評価が4項目と集中しており、生徒の学力の保証という意味においても今後も努力を要する結果となった。また、重点目標5の【教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める】については、評価項目設定が一つのみで、学校全体の評価とするには不十分な点があると思われる。

次年度の課題としては、学校全体として基礎力テスト等を活用しながら「学ぶ意欲を育むための継続的な取組」の充実と、各重点目標に対して、できるだけバランスよく評価項目を設定する等の工夫が必要である。また、「働き方改革」にも関連して、学校現場における職場環境づくりにも今後、積極的に取り組んでいく必要があると思われる。